

I 実践

1 研究主題 豊かな心情や人権尊重の精神を育み、認め合い、助け合う子どもの育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は、「夢の実現に向けて、生き生きと目を輝かせて学び合う、成沢っ子の育成～生徒指導の機能を活かした笑顔あふれる学校づくり～」である。これを受け、人権教育では、『子ども一人一人に人間尊重の自覚をもたせ、認め合い、助け合う子どもの育成』を目標としている。

本校児童は、全体的に明るく素直であるが、自己中心的であったり相手を思いやる配慮に欠ける言動をしたりする面も見られる。これには、多様なメディアからの影響や家庭環境の変化、様々な人とのかかわる機会の減少などが要因として挙げられる。そこで、学校の教育活動全体を通して、相手の立場を思いやり、認め合い、助け合う子どもを育成することが大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 実践内容

- ア 好ましい人間関係づくり
- イ 人権教育の視点に立った学習活動づくり
- ウ 人権尊重の視点に立った環境づくり

2 実践内容

(1) 好ましい人間関係づくり

ア Q-U の実施

学級集団全体の状態をデータとして把握するとともに、特別な支援を必要とする児童を把握するため、3年生以上の各学級で6月・10月に実施している。6月の実施結果をもとに研修会を行い、今後の対策を計画・実行し、10月は前回と比較し、更に改善を図る。

イ 学校生活アンケートと面談の実施

毎学期実施する学校生活アンケートをもとに面談を行い、交友関係の把握やいじめ、生徒指導の諸問題の早期発見と早期対応に生かす。

ウ 児童と教師及び児童間の皆遊

本校では、休み時間に教師と児童と一緒に外遊びを行っている。教室の中だけでは分からない児童の様子や交友関係も把握でき、一人一人へのきめ細やかな支援に役立っている。

エ 様々な人とふれ合う体験

- ・体の不自由な人（福祉体験・日立特別支援学校との居住地校交流など）
- ・外国の人（ALT・本校の外国籍の児童など）
- ・様々な職業人（町探検など）
- ・異年齢（学校探検・6年と1年の交流など）
- ・地域の大人（子ども会球技大会・おやじの会のイベント）

オ グループエンカウンターやアサーショントレーニングの積極的な活用

学級の実態や児童の発達段階を考慮しながら、好ましい人間関係を構築するための雰囲気づくりやスキルを学ぶことが大切と考え、積極的に取り入れている。

(2) 人権教育の視点に立った学習活動づくり

ア 福祉体験学習

車椅子やアイマスク体験を行い、身体の不自由な方にとって町は不便な場所が多いことを知った。これらの福祉体験学習を通して、身体が不自由な方への共感的理解を深め、誰もが住みよい町作りの大切さに気付くことができた。



イ 「人権メッセージ」(全児童)への取り組み

人権メッセージの作成を全児童に呼びかけて実施している。

ウ 人権集会「ハートほっこり集会」の実施

日頃なかなか伝えられない感謝の思いをカードに書き、伝える活動である。集会では、各学級代表が友達への思いを伝えた。お互いの気持ちを理解し、深め合うことができた。今年度もコロナ禍で放送集会とした。



〔人権集会：放送室からメッセージを伝える〕

(3) 人権尊重の視点に立った環境づくり

ア 好ましい言語環境づくり

相手の立場を尊重し、「さん」付けで呼び合い、全児童、全職員が丁寧な言葉遣いで話している。

イ 好ましい生活環境づくり

清掃活動に取り組み、朝も日直による

「清めの掃き掃除」を行っている。階段や教室にも花が飾られ、清潔で潤いのある環境が実現できている。

ウ 道徳・人権コーナーの設営

学年や学級に人権コーナーを設け、

課題に気付くことができるよう支援した。

エ ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境づくり

誰もが落ち着いて学習できるように、教室前面の掲示物は必要最小限にして、すっきりさせた。



〔みんなのよいところを集めた木〕

3 成 果

- (1) Q-U アンケートや学校生活アンケートによる児童の実態把握は、いじめや不登校等の問題の未然防止に役立った。
- (2) 積極的な児童との関わりや SST、SGE により、人間関係づくりが苦手な児童への支援ができた。
- (3) 人権が尊重される環境やよさ・頑張りの認め合い、「未来パスポート」の活用で自己肯定感が高まった。
- (4) コロナ禍により講師要請や全校児童による集会はできなかった、集会の形態を工夫するなどして実践できた。
- (5) 様々な人とのふれ合い、相手の立場や気持ちを考える活動により地域の人、家族や友達など多くの人々に支えられていることに気付き、周りの人々に感謝の気持ちをもつとともに自尊感情や自己有用感を高めることができた。

II 今後の課題

- (1) 人権を守る実践行動を育成するための教育活動の見直しと改善
- (2) 人権に関する理解と認識を高め、指導力の向上を図る職員研修の充実
- (3) 家庭や地域と連携した啓発活動の推進
- (4) コロナ禍における活動内容の創意工夫